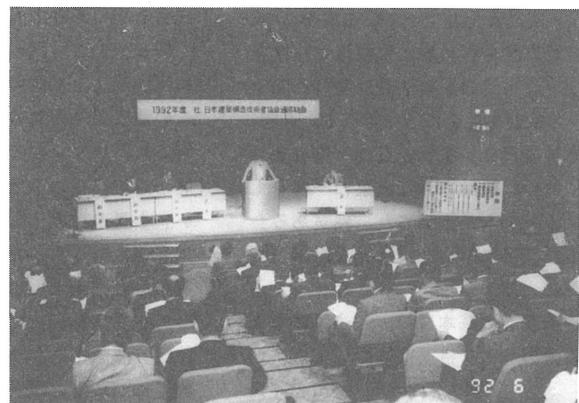


# Structure Kansai No.34 '92.8

## （社）日本建築構造技術者協会 第3回(1992年度)通常総会 始めて関西（於 京都）にて開催

1992年度通常総会は、6月5日(金)予定よりやゝ遅れて12時20分から京都市国際交流会館（京都市左京区栗田口鳥居町2-1）で開催された。野間常務理事が司会し、（社）日本建築構造技術者協会の1992年度通常総会を開催する旨宣言し、開会した。



JSCAの総会が、今回関西で開催されたが、東京(本部)以外の地では初めてのことである。関西では現在空港の建設、学研都市を初め関西の力を底上げするプロジェクトが多く進められている。又、京都の景観論争も人々の注目を集めている。こうした中で、全国の会員が関西に集えることは、意義深いと思う。又会場も京都とし、古都の佇まいも味わえたのも、良い印象となっていると思う。関西支部では、各分科会の活動も活発に行われている。毎年海外研修旅行もあり、その写真展も併せて行われた。この度は後述のようにシーザー・ペリ氏の講演を初め、テーマも建築構造士など多くのイベントが展開された。会員も東北から九州まで、関東からも多数出席された。懇親会も会場からロビーに溢れる盛会となり、京の宵、まことに良いひとときであった。

関西支部の総会は、この本部総会開会事前に行われた。これは関西の会員が、以外の地より参集される諸士の歓迎に役立った事と思う。こうした本部地以外での開催は、その地の活性化に大きい影響を与えていくと思う。以下にこの総会行事に参加された会員の声を掲載します。

### ■ 第3回(1992年度)通常総会

- 日 時 1992年6月5日
- 場 所 京都市国際交流館
- 総会議事 12:00~13:00
- 行事概要
- 1. 第3回JSCA賞受賞者講演会  
・北村春幸氏(日建設計)  
「千葉ポートタワーなどの塔状構造物に設置した制振装置の開発」  
・今井憲英氏(TIS and PARTNER)  
「団研本社、中央研究所の構造設計」
- 2. JSCA'92技術フォーラム  
「過去に学ぶ EXPO'70建築にみる構造デザイン」
- 3. JSCA業務フォーラム'92  
「構造設計の基本、建築構造士、業務報酬」



### 4. 記念講演会

- 建築家 シーザー・ペリ氏  
「PLACE AND PURPOSE」

### 5. 懇親会

- 見学会(6月6日)  
「関西新空港 現場見学会」

### ■ 会長挨拶(要旨)

本部の村田会長からは、次のような挨拶があった。

### 1992年度（社）日本建築構造技術者協会通



京都での総会開催について、準備、運営など関西支部の方々へのお礼が述べられた。又協会の活動も活発になり、本部事務局も今年1月に広い場所に移ったこと、今年度の大きなテーマは、「構造設計の基本」の策定、更に「構造設計事例集」の検討、もう一つは、構造士認定制度の具体化であり、本日の業務フォーラムでも、十分に議論をして、よい指針よい制度に育ててほしいこと、などが述べられた。



今ますます高度化・情報化の傾向が高まる社会で、これに対応して建築設計も複雑化・高品質化してきている情勢の中、構造設計業務も必然的に無関係では存在しない。当協会も構造設計業務に関する種々の検討を活発に行っている。今回、設計指針委員会・法制委員会・業務委員会等に於いて検討された成果の一部をもとにフォーラムが企画され、熱気ある会場で下記項目について、活発な討議が行われた。

①構造設計の基本(案) 寺本隆幸氏

②建築構造士資格制度について 浜田 守氏

③業務報酬基準

八巻 昭氏

小林紳也氏、佐竹克也氏

#### 業務フォーラムに出席して

宇藤 功

業務フォーラムと技術フォーラムが同時に開かれており、業務フォーラムの参加者が少ないので危惧していたが、暗に相違いして、補助椅子が必要なぐらいの盛況であった。しかし「構造設計の基本」「構造士」「業務報酬」の3課題を2時間程度の短時間で討議するにはあまりにも時間が少なく、課題の説明を聞くだけで充分の討議することなく終ってしまったのは残念であった。特に「構造士」も問題については、今なぜこの制度が必要なのかが正会員に充分理解されていないのではないかだろうか、なぜなら正会員の中で「構造士」とそうでない正会員が存在することになるのを疑問に思っている人が多いからである。「構造設計の基本」については、その内容について充分把握していない正会員が多くあまり議論にならなかった。又「業務報酬」については現状の構造事務所の仕事が意匠事務所の下請け的な仕事が多く現実とかけ離れた感があり、関心も薄いように感じられた。

(株)松村組

#### いいところで 尻切れ

能勢 善樹

三つのテーマには時間が不足だった。各委員会の説明に時間がかかり、討論が欲求不満の結果となったのは残念であった。このような機会がもっと早く持たれるべきであった。このように私が感じたのは、珍しく熱気を帯びたフォーラムであったからであろう。このフォーラムでは聴衆の中に正副会長、元会長の顔も見え、並々ならぬ関心を集めて開かれた。特に「建築構造士資格制度」のテーマが一番盛り上り、遂に時間切れとなってしまった。木村俊彦氏の述べた批判意見は根源に触れる問題で、構造士という資格がなぜ必要なのか。その点の討論が充分なされていないのではないか。現協会の制度の上に屋上屋を重ねる必要があるのか。また、資格審査を新たにするということだが、構造士にふさわしい資質を誰が、どうやって判定するのか。という事であったと思う。私は全て同感である。今後の運営委員会の前途は容易でないことをうかがわせるものであった。

(株)能勢建築構造研究所

#### 過去に学ぶ「EXPO'70建築にみる構造デザイン」

櫻井 政悟

建築の技術革新は、社会情勢の変化とも相まって、著しい変化を遂げている。また国際化から地球化へとグローバルな視点も拡大し、地球レベルでの環境への対応も着々と進んでいるやく思われる。当然建築においてもこの視点も包含し進められるべきであるが、時として原点が忘却される場合もある。

本技術フォーラムは過去に学ぶと題してEXPO'70の各構工法のパネルディスカッションが行なわれた。ニューマティック、サスペンション、立体トラス等、20余年を経過したとはいえ、そのストーリー性は現在開花し、あるいはせんとする技術のベーシックと考えられ、誠に興味深いものでありました。

建築の技術も含んだ、構造デザインは誰のためにあるかは、種々意見のある所だが、社会との切り難い糸に結ばれていることを考えつつ、技術の原点を再度見直すという、本技術フォーラムは誠に盛況で正解であったと思われる。

(株)フジタ

森田 秀喜

早いものでEXPO'70より22年経つ。設計と施工にそれぞれ1年半ほどとすれば、EXPO'70の建物群が計画の始まった時期より4半世紀が過ぎたことになる。この間に構造技術が大きな進歩をとげたかどうかは議論の分れるところであろうが、明らかに高層建物は増え大スパン構造物が数多く見られるようになった。しかしながら、解析技術の発達と施工重機の大型化が必ずしも構造技術の進歩に対する代名詞と成り得ないと考えるとき、今回のような技術フォーラムのテーマは非常に意味深長である。当時、設計や施工に携わった人達の熱っぽく語られる苦労話を伺うとき、私たちが本当に受け継がなければならないのは、計画に参加し、その計画を実現させた技術者達の「熱き心」だと感じたのは私一人ではなかったのではないか。当日は進行が遅れぎみだったため、司会者も指摘されていましたように、少しまとまりの悪いフォーラムとなつたのが残念であった。

(株)安井建築設計事務所



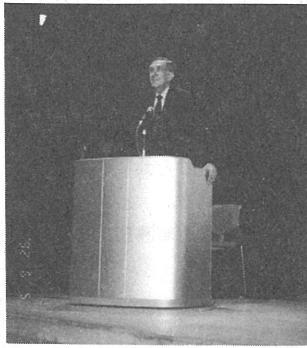
構造技術を駆使して、豊かな建築表現を獲得するデザイン手法として、EXPO'70で花開いた我国の「構造デザイン」をテーマに、5人のパネラーに話題を提供していただき、過去から現在の発展、将来への可能性について、パネルディスカッションが盛況に行なわれた。

パネラーと話題

特殊材料とEXPO'70建築 中東達男氏  
施工技術とEXPO'70建築 木村 稔氏  
ニューマチック構造と

EXPO'70建築 昇高 淳氏  
吊り構造とEXPO'70建築 向井久夫氏  
立体トラスと

EXPO'70建築 渡辺邦夫氏



## 略歴

1926年 アルゼンチン ツクマン生れ  
1949年 ツクマン国立大学 建築学科卒  
1954年 イリノイ大学 建築修士取得  
1954~1964年 エーロ・サーリネン事務所勤務  
1964~1968年 J M D M事務所設計部長  
1968~1976年 グルーエン・アソシエイツ設計部長  
1977年 シーザー・ペリ アソシエイツ設立  
現在に至る

## 主要作品

ニューヨーク近代美術館増築・修復  
ノーウェスト・センター(ミネアポリス)  
マタタック博物館(コネチカット州)  
ライス大学・レイ学生センター増築計画  
(テキサス州)  
ワールド・ファイナンシャル・センター  
(ニューヨーク)  
パシフィック・デザイン・センター増築  
(ロサンゼルス)

## 関西新空港現場見学会

前日の総会、講演会、各フォーラムの熱気冷めやらぬなか、ホテルでの朝をむかえた。京都発8:40の新快速に乗り新大阪駅へ向かう。貸し切りバスが待っている。関西支部の幹事の方々の用意周到なガイドと、両手にいっぱいの新空港関係の資料の配布、詳細な説明があり、また「本協会初の海外視察…」との司会者のジョークに一同爆笑なごやかな空気のなか和気あいあいのうちに出発、大阪市内の名建築の紹介あり、車窓からは今話題の「梅田スカイビル」が見える。ツインビルの頭部は既に屋上庭園のリフトアップが完了している。原広司の設計、構造はこのバスに同乗されている木村俊彦氏の設計である。

11:30泉佐野港へ到着、早速オレンジ色のライフジャケット、保護帽を着用、いよいよ海外視察のため乗船、はるか行手にはほぼ完成した本島との連絡橋が水平線に平行に見えている。20分程の船旅のうち空港島5号岸壁に到着、そこから又バスに分乗、砂ぼこりのなか、北工区JV事務所に落着いたときは丁度正午、

## 記念講演を聞いて

宮崎 英也

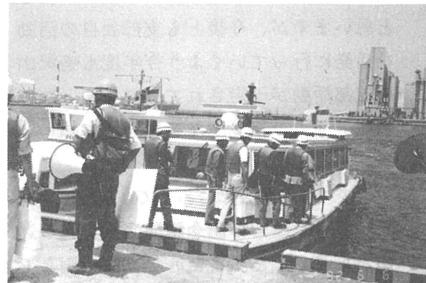
初夏の京都で、シーザー・ペリ氏の記念講演を聞きました。

講演の中で紹介された作品の数々は、いずれも、氏の建築と地域に対する考え方方が明快に説明されて、「PLACE AND PURPOSE」にふさわしいテーマとして深く感銘しました。

氏の作品の1つであるマンハッタンのワールドファイナンシャルセンターは、四つのタワーの幾何学的な形をしたガラスのファサードと頂部の彫刻的なフォルムによって、その場所(PLACE)における周辺建物や又、空とハドソン川に対峙し、調和している姿が実にすばらしいものと思いました。タワーの間にあるパブリックスペースは、周辺地域の人々の憩いの場として親しまれ、活用されている様に見受けました。これらは氏の目的(PURPOSE)が、十分に達成されたものと思います。

現在、東京と福岡において、氏の設計による建物が計画されており、日本の構造家との協力で、どの様な空間構造となって実現されるかが楽しみであります。

(株山田建築構造事務所)



弁当が配布され、昼食をとりながらビデオ「巨大人工島の創成」を見る。旅客ターミナルビルの設計概要、北工区、南工区、海管制塔の工事状況の説明を受け、いよいよ現場視察。

空港島は大阪南東部泉州沖5kmの海上に位置し、511haの面積を有する人工島で、約18mの大水深を5年程の短期間で埋立て(現在も埋立て中)、この巨大人工島の埋土層約33mの真下は旧海底面直下の沖積粘土層厚20mでサンドドレイン工法が施され、その下部に層厚140mの洪積層が分布している。新空港はこのようにして作られた人工島の上に展開されるものである。

## 絵葉書になる建築

八木 貞樹

190cmを越える身長を少しかがめてシーザー・ペリが登場した。温和な表情とややスペイン訛りの英語をゆっくりと喋る姿は教会の牧師を彷彿させる。饒舌過ぎず豊富なデザインボキャブラリーを品よく用いる彼のデザインと人格とがマッチしていると感じた。今回のテーマは「場所と目的」であった。彼は語る「建物は周辺との調和を大切にし、かつ目的に合った建物を設計しなければならない」つまり「建物が周辺を含めて建てよかったですか否かが大切であり、単体の良否ではない」平凡な言葉であるがN.Yのファイナンシャルセンターを見て感じた印象と見事に合致している。建物の評価のひとつとして「絵葉書に使われれば一般に受け入れられた証拠」と語る。我が日本の建築家なら恥しいと感じるような発言に思える。日米の絵葉書のレベルの問題か、一般のデザインに対する理解の差にあるのかはわからない。

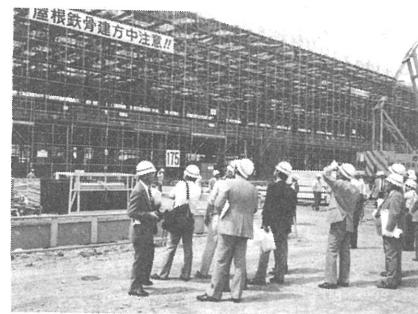
作品を二面スクリーンに美しく写しながらの気負いのない解説は私を清々とした気分にさせてくれた。

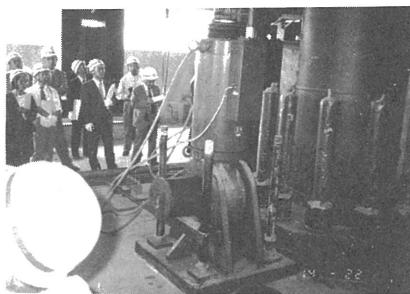
(株大林組)

## 佐竹 克也

旅客ターミナルビルは、本館を中心と北、南の両ウイングで構成され、全長1600m、奥行150mである。そのため約150m間隔でエキスパンションジョイントを設け、さらに建物中央部には粘性ストッパーが設置されている。完成時は、延面積30万m<sup>2</sup>、地上4階、地下1階建となる。

イタリアの建築家レンゾ・ピアノのデザインの空港ビルの外観は、エコロジカルな自然と、現代のテクノロジーの共存を図るとの主張のもと、独特の曲面で構成され、竣工が待ち遠しい。満月の夜にこの建物がどんな姿を見せるのか楽しみである。





一方、管制塔は上部へ伸びる高層建物となる。上部構造は内側シャフト部は4本のインナーコラムとプレースで構成され、外周部は8本のアウターコラムが配置され、下部ではスタンスを広げ塔状比を5以下にしている。さらに上部に設けられたアームトラスにより内と外を繋ぎ転倒モーメントに抵抗させている。平面剛性はシャフト外部に水平プレースを各階に設けてある。

さらに、庁舎棟は地上37m 8階建のラーメン構造で、1階床下にジャッキアップスペースが設けられている。

以上3棟は共に地盤と建物基礎部の境界部分にそれぞれ工夫された特殊工法が採用され、上部構造の軽量化とともに浮力の矛盾の解決としてのカウンターウエイトや、粘性ストッパーの設置により、温度伸縮、不同沈下などの緩慢な動きには抵抗力を発生せず各々追随し、地震力の急激な動きにはほぼ一体の挙動を期待したものとのことである。

様々に工夫されたディテールを二重三重のステップにより建物の挙動を制御するシステムが、むしろ建物完成後に課題を残すものと思われる。

午後3時過ぎ全ての日程を無事終了、新大阪へ夕方5時30分に戻り、解散となった。

初夏の一日、日頃動かない土の上に建物を設計している我々が、今日は大地も動き、建物も動くという、まさに最先端のテクノロジーを体験させていただいたわけである。今日の見学会を企画された関西支部の方々、更に説明いただいた現場の方々に感謝すると共に、無事の完成を心より願っている。

(一級建築士事務所 佐竹設計)



### 第3回 関西支部総会開催

平成4年度の(社)日本建築構造技術者協会関西支部の通常総会は、本部総会と併せて京都市国際交流館で開催された。総会では平成3年度の活動報告及び、平成4年度の活動方針について真剣な審議が行われ、満場一致で採択された。

続いて行われたJSCA関西構造家賞の表彰では、「構造設計支援システムCASSの開発と利用」で、安井建築設計事務所の中川佳久氏と日本総合研究所の北村俊次郎氏、「構造美の表現として混構造を用いた一連の構造設計」で、キンキ構造設計の浜田富枝氏が受賞された。



#### 支部長挨拶

久徳 敏治

皆様お早うございます。本日はJSCAの年次総会を当地京都で開催いたしました都合上、早朝よりご参集賜りましたこと誠に有難うございます。皆様のご協力により、お陰さまで年次総会を京都で開催出来る運びとなりました。支部関係者の方々には今までのご苦労に厚く御礼申し上げます。

さて、当協会も法人になって3年、難しい峰にさしかかっております。今総会においては、特に構造士の問題が前面に出てまいっております。構造士に関しましては賛否両論が喧しく論じられている中、今日の総会で一応の結論に至り、船出をすることになっております。皆様におかれましても、より建設的なご意見でもって報告会にご参画賜り、当協会の

活性化にご協力いただきますようお願いいたします。

また、当支部は過去一年、ユニークで活発な支部活動を行ってまいりました。後ほど事業報告にその実情がうかがえると思いますが、今後とも支部独自の活動を活発に行っていくよう今年度も盛沢山の支部活動が予定されております。なにとぞ皆様方の積極的なご参画をお願いいたします。

最後に、当総会に合わせて、建設家センター・ペリさんの記念講演会も実現の運びとなりました。また昨年支部企画として実施しましたJSCA関西スペイン研修視察団の写真展も当会場に併設いたしております。なにとぞ高覧賜りまして、人気投票の一票にご協力下さい。

また、本年も海外視察9月末にテーマ“ウォータ・フロント施設”視察のオーストラリア行きが予定されております。皆様方にも奮ってご参加賜りますようお願いいたします。

本日は早朝より多くの支部会員の方々のご参集賜りましたこと、あらためてお礼申し上げまして、簡単ではございますが、支部総会の挨拶にかえさせて頂きます。

#### 支部総会

日 時 平成4年6月5日 10:00～11:00

出席者 47名 委任状 229名

司 会 俣野 博 氏

議 長 金澤 正明 氏

議 事

①平成3年度支部事業、決算及び監査報告

②平成4年度支部役員選出

③平成4年度支部事業計画及び予算の決定

④JSCA関西構造家賞表彰

#### 写真展

関西支部海外研修会(平成3年11月)  
「バルセロナ五輪施設及び、セビリア万国博施設視察」の写真展が併設され、好きな写真のアンケート投票も行われた。



## JSCA関西構造家賞 受賞感想文

### 構造設計支援システムCASSの開発と利用

構造設計支援システムCASSは、構造計算・構造図作図分野の統合化システムとして5年ほど前に開発がスタートしました。当時すでに多数のプログラムを開発し利用していましたが、建物が大規模化・複雑化し設計技術が多様化する中で、今後コンピュータ利用を推進していくには構造設計業務全般を担う統合化システムが不可欠との考えからでした。

プログラムは当初から大規模となることが予想され、また開発後も基幹システムとして強固な維持体制が必要であるとの判断から、安井建築設計事務所と日本総合研究所による共同開発となりました。幸い両社は建築分野のプログラム開発で10数年のつきあいがあり、この大規模プロジェクトにも、両社トップの理解をバックに互いに得意とする技術を十分に生かすことができました。

システムの仕様決定に際しては、「高層建物や大規模・複雑な形状の建物にも十分対応できること」、「建物のデータ

ベースによって様々な構造計算・解析・作図を自由に何度も行なえること」、「設計環境の変化に対応すべく機能拡張が容易であること」などに配慮しました。また、できるかぎりたくさんの設計者に利用してもらうため「プログラム公開」を前提としました。

開発期間中は、口角泡を飛ばしての議論、約20名のメンバーが関わった開発繁忙期など、山あり谷ありの難事業でしたが、両社開発者の努力と様々な方の協力により、2年後に中間使用開始、約3年半で所定の開発を終えることができました。

CASSの運用に際しては、社外の設計者でも気軽に安心して使えるように、開発者が物件毎にサポートし、データ作成は専任のデータ処理要員が行える体制にしています。このような体制のもと、CASSは現在自社のほとんどの設計建物に適用され、日本総合研究所を通じて社外の設計者にも広く利用されています。

株安井建築設計事務所  
株日本総合研究所 中川 佳久  
北村俊次郎



北村俊次郎氏 中川佳久氏

概してプログラム開発は設計行為に隠れて「縁の下の力持ち」的存在ですが、このたびCASSの開発と利用について幸運にもJSCA関西構造家賞をいただきましたことは、われわれ開発チームにとって大きな喜びと自信となりました。CASSは、新しい構造材料への対応や解析機能の強化など現在も継続的に開発を行っていますが、この賞をはじめとして今後ともたくさんの設計者に利用してもらえるよう努力していきたいと思います。どうもありがとうございました。

### 構造美の表現として混構造を用いた一連の構造設計

#### — シャープ労働組合研修リクレーションセンター・アイアイランド —

この度、「構造美の表現として混構造を用いた一連の構造設計」での業績に、JSCA関西構造家賞をいただきました。これは、私に良き指導と機会を与え続けて下さった恩師であり又所長でもある須賀好富先生、そして瀧光先生、事務所の方々、御協力くださいました皆様のおかげと感謝いたしております。

混構造を用いた一連の構造設計は、今年度日本建築学会作品賞（シャープ労働組合研修リクレーションセンター・アイアイランド）を受賞されました瀧光先生との一連の作品での評価でした。

私が瀧光先生の構造設計を担当するよ

うになったのは、昭和54年からです。主なものは、石川県林業試験場展示館、服部緑地・緑の相談所、にしき堂本社ビル、福岡市植物園展示展望台、水戸熱帯植物園、高槻森林組合関連施設、シャープ・アイアイランド等です。木と鉄とコンクリートとそしてガラスの組み合せで、構造部材がそのまま意匠となって見えてくる事がほとんどなので、各接合部での納まりが、合理的で美しくというのが条件となります。設計段階や、現場での打ち合せは、納まりの話に時間が多く費します。設計の意図をそのまま実現するのはなかなか大変な事ですが、多くの人に助けてもらひながら一つ一



室内ミニプール

株キンキ構造設計 浜田 富枝

つやってきました。建設場所が大阪から遠くはなれた所が多く、現場での打ち合せの後、その土地土地のおいしいものを食べるのも楽しみの一つです。又たいてい私が現場へ行く時は、土を掘りおこした時や、足場や仮囲いのある時ですが、出来あがってからも、一般の人が利用できる建物の場合が多いので、完成後どのようにになっているのか見に行くことができるのも楽しみにしています。先日も緑あふれるシャープ・アイアイランドで宿泊し、森林浴をしながらのテニスプレーを味わってきました。

今回、受賞しました事は、ほんうに榮誉な事と喜んでおり、又これからの大好きなはげみになる事だと思います。御推薦いただきました諸先生や、会員の皆様に心よりお礼申しあげます。



水のパティオからのフラワーホール

## ■平成3年度支部事業報告

### A 総会

平成3年度支部総会 5/10

### B 支部役員会

2回開催 5/31, 11/7

### C 懇親会

1回開催 5/10

### D 委員会

(a) 広報委員会 4回 5/14, 8/7, 10/30, 1/22

(b) 技術委員会 7回 6/24, 10/23, 12/5, /28

2/13, 2/24, 3/23

(c) 資格認定制度検討特別委員会

1回 6/12

(d) 総会準備特別委員会

4回 5/31, 9/25, 11/7, 3/16

(e) 技術委員会分科会

・鉄骨分科会 2回 7/19, 2/4

・RC分科会 1回 3/26

・PC・プレファブ分科会

4回 4/22, 8/5, 11/8, 1/30

・基礎分科会 6回 4/9, 6/11, 8/5, 10/2, 12/5, 2/4

・コンピュータ分科会

6回 5/22, 7/25, 9/25, 11/23, 1/23, 3/19

・耐震設計分科会

6回 5/21, 7/23, 9/25, 11/26, 1/28, 3/24

・構造計画分科会

10回 4/23, 5/14, 6/21, 6/29, 7/24, 10/17

11/19, 12/12, 1/14, 2/25

### E 講演会および講習会

(a) 講習会

12/5, 12/12 参加者 150名 於 建設交流館

「わかりやすい鉄骨監理」 講師 丸岡 義臣氏  
「はじめてのPC・PRC構造」

講師 松谷 輝雄、須賀 好富、徳永 雄一郎  
大内山正英、田中 利幸、土居 健二氏

### F 定例研究会

(a) JIA・JSCAジョイント パネルディスカッション  
「建築鉄骨の柱・梁仕口部に関する諸問題について」

主旨説明 内田 直樹氏

パネラー 須賀 好富、山本 豊弘、深井 敬三

丸岡 義臣、原田 陽一郎、松井 忠夫氏

参加者 86名

(b) 海外研修会

「バルセロナ五輪施設およびセビリア万博施設視察」

団長 山田 稔 神戸大学教授

参加者 34名

### G 支部報

Structure Kansai 3回発行 No.30、No.31、No.32

### H 対外協力、協賛

(a) 講習会 「建築構造の設計における最近の話題」

主催 建築学会近畿支部 11/13 於建設交流館

(b) シンポジウム 「耐震設計の常識を問う」

主催 建築学会近畿支部耐震構造研究部会

11/15 於 大阪市立大学文化交流センター

(c) 建築関連10団体合同忘年会懇親会

12/14 於 太閤園 ダイアモンドホール

(d) 建築関連11団体合同新年交礼会

1/6 於 マイドーム大阪

(e) 建築関連11団体会長午餐会

11/18 於 大阪ガスピル

(f) 全国鉄構工業連合会精度検査技術者資格認定講習会

講師派遣 2/20, 2/25, 7/22~23, 10/7~12

### I 親睦会

(a) ゴルフ同好会

5/21, 11/19 於 伏尾G.C

(b) 囲碁同好会

11/9 於 囲碁サロン爛柯

## ■平成3年度支部決算書

自 1991年4月1日  
至 1992年3月31日

科 目		予 算	決 算
収 入	交付金収入	3,947,095	3,397,095
	支部研究会費	100,000	1,903,200
	支部懇談会費	700,000	427,000
	受取利息	7,905	9,848
	雑 収 入	20,000	0
	収 入 合 計	4,775,000	5,737,143
支 出	消 耗 品 費	60,000	23,215
	通 信 事 務 費	170,000	147,209
	委 員 会 費	930,000	514,034
	研 究 会 費	400,000	2,183,157
	総 会 費	100,000	246,104
	理 事 会 費	50,000	66,085
	懇 談 会 費	700,000	406,920
	会 誌 発 行 費	780,000	527,594
	名 簿 発 行 費	200,000	0
	調 査 費	45,000	0
	渉 外 費	100,000	96,384
	賃 借 料	840,000	770,000
	雑 費	200,000	166,169
	予 備 費	200,000	0
	本 部 返 済 金	0	590,272
支 出 合 計		4,775,000	5,737,143

(単位 円)



■平成4年度支部事業計画

1. 通常総会及び支部総会 6/5 京都にて開催
2. 定例研究会
  - ・分科会の成果を発表
3. 見学会
  - ・高層建物および特殊建物 隨時開催
4. 研究会活動
  - ・技術委員会の分科会活動として2か月に1回程度研究会を開催
  - 分科会の種類—鉄骨、RC、PC、プレファブ、基礎、コンピュータ、耐震設計、木造、構造計画、耐久性研究、工業化工法
5. 技術フォーラム（技術委員会）
  - ・'70EXPOの建築に見る建築の構造
6. 講演会（総会時）
  - ・シーザー・ペリ氏
7. 海外研修会
  - ・9/26～10/4 オーストラリアのウォーターフロント施設を中心とした最新建築を訪ねて
8. 支部報「Structure Kansai」の発行 年4回
  - ・支部の動向、トピック、投稿、会員紹介他
9. JSCA関西構造家の表彰
10. 親睦会
  - ・懇親会、ゴルフ親睦会、囲碁親睦会
11. 関連団体との交流

■平成4年度支部予算書

自 1992年4月1日  
至 1993年3月31日

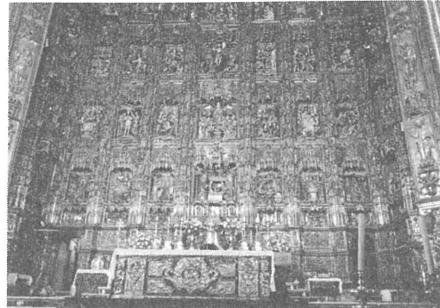
科 目	予 算	備 考
收 入	交付金収入 4,540,272	前期繰越金+本部交付金
	支部会費 0	
	支部研究会費 100,000	定例研究会2回
	懇談会費 1,700,000	懇親会
	雑 収 入 59,728	受取利息含む
	収入合計 6,400,000	
支 出	消耗品費 60,000	
	通信事務費 200,000	
	委員会費 950,000	各委員会開催費※1
	研究会費 890,000	定例研究会、見学会
	総会費 150,000	支部総会開催費
	幹事会費 50,000	
	懇談会費 1,700,000	懇親会
	会誌発行費 800,000	4回発行
	名簿発行費 200,000	
	調査費 0	
	涉外費 300,000	建築関連11団体関係涉外
	事務補助謝礼 600,000	@50,000×12
	雑費 200,000	
	予備費 300,000	
	支出合計 6,400,000	

※1 • 総務、事業 各2回 @10,000×4= 40,000 (単位 円)  
 • 広報 12回 @10,000×4×3=120,000  
 • 技術 5回 @10,000×5=50,000  
 10分科会 710,000  
 • 経費 30,000

■支部役員

- |       |                   |
|-------|-------------------|
| 支 部 長 | 久徳 敏治(竹中工務店)      |
| 副支部長  | 青柳 司(日建設計)        |
| 副支部長  | 能勢 善樹(能勢建築構造研究所)  |
| 幹 事   | 大塚 譲(清水建設)        |
|       | 宇藤 功(松村組)         |
|       | 岡田 克幸(昭和設計)       |
|       | 柏木 良雄(熊谷組)        |
|       | 日下部 弘(鹿島建設)       |
|       | 須賀 好富(近畿大学)       |
|       | 長田 正雄(長田建築事務所)    |
|       | 林 保(安井建築設計事務所)    |
|       | 鵜口 元一(大林組)        |
|       | 馬瀬 芳知(馬瀬構造設計事務所)  |
|       | 眞塚 達夫(東畑建築事務所)    |
|       | 松谷 輝雄(鴻池組)        |
|       | 八木 大児(平田建築構造研究所)  |
| 監 査   | 岡嶋 一仁(大成建設)       |
|       | 谷尾 俊弘(イオリ建築設計事務所) |
| 事 務 局 | 板垣 勝善(大林組)        |
|       | 大和田精一(日建設計)       |
|       | 金澤 正明(大林組)        |
|       | 斎藤 幸雄(日建設計)       |
|       | 角 彰(竹中工務店)        |
|       | 保野 博(竹中工務店)       |

関西支部海外研修旅行写真展入賞者表彰



“聖書物語・黄金は神の輝き”  
1位 久徳敏治



“哀愁”  
シーザー・ペリ賞 田中利幸

出展数 52点 (16名)

投票数 74票(シーザー・ペリ氏、横尾  
名譽教授他)

入賞決定 1位～3位連記式で、1位  
3点、2位2点、3位1点  
の重みを付けてその総合点  
で順位をつける。



“サン・ジョゼップ市場の果物”  
2位 横原健一



“生誕のファサード”  
3位 横原道子

## 会員紹介

泉 洋輔

- ④ 株能勢建築構造研究所
- ④ クラシック音楽鑑賞、  
ドライブ



クラシックを聞いていると、作曲者、オケ、指揮者、楽譜、楽器だけでなく作曲者たちが生きた当時の様子にまで興味対象が拡大し、オフには二百年前のヨーロッパの世界に魅了されている。そして最近二人の子供が、流れている曲の作曲者を覚えるようになり、衝動買いした電子ピアノを前に何やらやっている。

西村 勝尚

- ④ 株大林組本店建築  
設計第7部
- ④ テニス、サッカー



構造設計を職務とし10年少々、最近の時流の早さ、膨大な情報量、ニーズの多様化には驚かされるばかりです。その中で時流を把握し、有効な情報を選択し得る力を持ち、常に積極的に新しい技術を取り組む姿勢を持つと同時に、新しい何かを生み出すクリエイターでありたいと心掛けています。

北畠 恵雄

- ④ 株ティーエムエッチ
- ④ ゴルフ、旅行



建築構造設計を始めて早や20年余になりました。ティーエムエッチを共同で開設させて戴き2年が過ぎました。日常は設計業務におかれ一日が非常に短かく感じております。今度JSCAの鉄骨分科会に入会させて戴くことになり会員皆様のご指導をお願い申し上げます。

松尾 雅夫

- ④ 株安井建築設計事務所
- ④ テニス、サイクリング、  
将棋



私は建築地盤工学分野での設計技術の向上と、コンピューターによる構造設計支援という共に境界領域のテーマに取り組んでいる。異分野の融合を図るために、常に既存概念にとらわれないことを心がけている。休日には、趣味と実益をかねて、周辺の古都の名建築を観賞し、温故知新に努めている。

永津 良平

- ④ 株和田建築システム  
開発
- ④ 体を動かすこと



鉄骨はすばらしい材料です。それは壁方式の建築に閉じこめられている刑務所から解放されます。プラスチックはすばらしい材料です。それは形、色、不燃性、耐久性をもつ人工材料で無限に使用されることでしょう。木材もすばらしい材料です。自然なぬくもりがあって非常に美しい材料です。あと6年後、奈良建築博でのすばらしい建物をたのしみにしています。

藤原 君夫

- ④ 株ティーエムエッチ
- ④ ゴルフ、読書



「釣り合いを欠く構造は、もとより建築といしさかのかかわりもない。しかし、構造が釣り合いを持てば建築となる」

—ブルー・タウトの言葉より—

上記の言葉を座右の銘とし、今後とも、「釣り合いのとれた構造」を作るべく、努力していきたいと思います。

### ●支部の動き

- ・4/14 広報委員会
- ・4/15 現場見学会 弁天町駅前再開発  
参加者 95名
- ・4/23 技術委員会  
総会技術フォーラムの準備
- ・4/27 総会準備特別委員会
- ・5/19 JSCA賞選考委員会
- ・5/29 支部役員会
- ・6/5 支部総会 於京都市国際交流会  
館 出席者47名 委任状229通  
他に技術フォーラム、業務フォーラム、シーザー・ベリ氏の講演会、懇親会の関連行事
- ・6/18 事業委員会
- ・技術委員会分科会活動  
構造計画 4/14, 5/19, 5/26, 5/28, 6/24  
コンピュータ 5/19 基礎 6/9  
鉄骨 5/29
- ・7/13 京都在住会員懇談会

### ●編集後記

今号を読まれて、JSCAの躍動を感じとって頂けたと思う。今後共、行事、分科会等には大いに参加して頂き、会員の交流や新情報を得る機会として役立てて下さい。

(矢田貝、三原)

発行(社)日本建築構造技術者協会関西支部事務局  
拂竹中工務店大阪本店設計部 担当 保野 基  
TEL(06)538-5371-(5700) FAX(06)538-5445